

沖縄研修会報告書（情報活用研究部会、安保研究部会、愛知研究部会）

- 日時：2026年1月10日（土）14:00～17:30
- 会場：首里染織館 suikara 会議室
- 参加者：大川、佐々木、磯部 部会長 等 合計7名

全体概要

本研修会は、サイバーセキュリティ、科学技術と社会、防災、福祉、認知科学といった多様な分野からの報告を通じて、現代社会におけるリスクと人間の行動・認識との関係を多角的に捉えることを目的として開催された。

特に「特別講演」では、沖縄の歴史的・文化的背景を踏まえた災害リスクの捉え直しが行われ、自然災害のみならず、社会的・歴史的要因が防災意識に与える影響が示された。

また、能動的サイバー防御や量子・科学技術に関する報告では、技術的進展そのものだけでなく、それを社会がどのように受け止め、統制し、共生していくのかという課題が共有された。さらに、ペット同行避難、地区防災計画、認知症カフェ、VRと認知の関係、大学におけるキャリア支援といった報告からは、制度や技術だけでは捉えきれない「生活の現場」や「人の認識」に根ざした実践の重要性が浮き彫りとなった。

本研修会は、専門分野の知見を持ち寄ると同時に、近況報告を含む自由度の高い構成とすることで、分野横断的な対話と相互理解を促進する場となった。

特別講演：沖縄の歴史と災害 -実はある、地震のリスク- 松村直子氏

沖縄における災害リスクを、自然条件だけでなく、戦争や侵略、言語・文化の断絶といった歴史的背景から捉え直した。

沖縄では地震リスクが低いというイメージが根強い一方で、実際には無視できないリスクが存在すること、また防災行動が進みにくい背景には、歴史的経験や地域文化が影響していることが示された。防災を地域に根付かせるには、制度や技術だけでなく、地域の歴史やアイデンティティへの理解が不可欠であるとまとめられた。

◎能動的サイバー防御の残された課題

近年注目される能動的サイバー防御について、その必要性と同時に、法制度、国際関係、民間との役割分担など、未解決の課題が多く残されている点を整理した。

単なる技術論にとどまらず、安全保障と民主主義、個人の権利とのバランスをどのように確保するかが重要な論点として示された。

◎科学技術との共生

科学技術の進展と人間社会との関係について、単なる利便性の向上ではなく、「共生」という視点から再考する必要性が論じられた。

技術は中立的な存在ではなく、利用のされ方によって社会構造や価値観に影響を与えることを踏まえ、技術をどのように選択し、制御し、社会に位置づけるのかという問い合わせが提示された。

◎ペット同行避難・同伴避難の現状

災害時におけるペット同行避難・同伴避難の現状と課題について報告した。制度上の整理だけでなく、住民意識や避難所運営の現場で生じる課題を踏まえ、人とペットの双方の安全と安心を確保するための社会的合意形成の重要性が指摘された。

◎認知症カフェについて

認知症カフェの取り組みを通じて、地域における居場所づくりと支え合いの実践について報告が行われた。高齢者や家族、地域住民が緩やかにつながる場としての意義が示され、福祉の実践が地域コミュニティの基盤強化につながる可能性が共有された。

◎バーチャルリアリティ（VR）と人間の認識高度化との相関作用について

VR技術が人間の認識や理解の在り方に与える影響について、認知の高度化という観点から報告が行われた。体験型・視覚的手法が、言語や経験の差異を補完し、新たな理解や行動を促す可能性を持つことが示された。

◎近況報告 A

地区防災計画に関する近況を報告し、地域防災における住民参加や対話の重要性について共有した。計画策定を目的化するのではなく、地域の暮らしや日常の延長線上で防災を考える姿勢の必要性が示された。

◎近況報告 B

大学におけるキャリアコンサルティングの実践を通じて、学生一人ひとりの不安や価値観に寄り添う支援の重要性を報告した。キャリア形成を個人の問題に還元するのではなく、社会や環境との関係の中で捉える視点の必要性が示された。



以上